

大分方言における可能表現の地域差・世代差

～通信調査の結果および考察～

松 田 美 香

1. はじめに

大分県方言の可能表現については、糸井・種・日高(1977-1991)¹等に、数地点における詳細な研究がある。また渋谷勝己(1993)²は全国レベルでの通時的・共時的な研究である。これらの先行研究の結果、可能の意味の下位区分が設定され、複数ある方言形式がどの区分あるいは領域³を担当するかが示された。しかし、これらの研究や九州方言研究会(2004)⁴でも言及されているように、実際のところは例外も多く観察され、これまでに設定された意味区分あるいは領域間の関係、すなわち可能の意味構造はさらに追究されるべきものと思われる⁵。そのためには、先行研究後の変化、各形式の盛衰などの実態を調査する必要がある。

本稿は、大分県内各地・各世代の可能表現を通信調査によって調べた結果とその分析である。地点・世代の比較研究から分かったことを報告し、これまでの研究の流れも踏まえて考察を試みる。可能表現の意味構造研究の一助になれば幸いである。

2. 目 的

まず、大分方言には可能表現に関わる形式がいくつかあるが、それらの使用の実態を把握する調査を行う必要がある。先行研究では「心情可能」「能力可能」「内的条件可能」「外的条件可能」という可能の条件(可能の根拠)による意味区分を設定し、各形式の使用を地点別・年代別に見るという方法をとってきた。

さて、大分県方言でも観察されるキル(否定形キラン)は「能力可能」を表す形式とされ、九州地方中部～北部で盛んである。GAJ(『方言文法全国地図』)182図や184図を見ても、本州では山口県に2地点分布がある他はすべて九州地域での分布である。

ところで、共通語にも「最終回まで投げきる」「たくさんの料理を食べきった」の言い方があり、この場合は〈終わりまで～する〉の意味であり、「完遂」を表す複合動詞を作る。〈「完遂」が可能である〉という意味の「食べきれる」などの「きれる」、つまり「きる」の可能動詞も観察される。一方、大分方言のキルは〈～することができる〉という可能の意味で盛んに使われている⁶。

例文(1) エレーコトゥ アンター ナニオシナサイ ナンノ ユータチー、 ソエナコトゥ
アンター シャベリキルカエ、 オドッガヨナ イナカモンガー。

(NHKの方言番組の収録で自分は偉いことを話すことはできないという意味で、偉いことをあなた、何をしなさいの何の言ったって、そんなことあなた、しゃべれるもんか。私たちのような田舎者が。)⁷

(旧)西国東郡真玉町54歳女性(1984年)

例文(1)の場合、〈最後までしゃべる (話す) ことができない〉という意味よりも、〈うまくしゃべる (話す) ことができない〉という意味で解釈するのが妥当であろう。共通語と同形ではありながら意味のずれが生じているわけである。このキルについては、完遂の意味が拡張して可能の意味領域に至っているという捉え方が主流であった。それに対し、青木 (2004)⁸では史の変遷から見て、その一段階前の〈十分・完全な状態へ至る〉から九州方言の可能の意味へ拡張したとの見解が示されている⁹。

また「外的条件可能 (状況可能)」を表すとされる (ラ) レル、「内的条件可能 (主観状況可能)」を表すとされる (レ) レル、「外的条件可能」の一部 (時間や機会の有無を根拠とする) を表すとされるダス、その他にもウスやコナスが可能表現形式として観察される。各形式がどのようなしくみによって使い分けられ、またはどのような地域あるいは年代で使われるのかは、詳しくは調べられていない。

以上から、本研究の目的を大分方言の可能表現における、各地・各世代の各形式の意味領域を明らかにすること、特にキルを中心としてその他の形式との関係を明らかにすることとしたい。

3. 可能表現通信調査の内容

3-1. 調査票 九州方言研究会可能表現調査第2版、可能追加調査 (ともに2003.04) より25問を抜粋。抜粋基準は、過去調査状況を見て多数の話者の解答が一致している (その傾向がある) もの。それぞれ、心情・能力・内的条件・外的条件¹⁰、肯定・否定、現在・過去を網羅するように質問を作成した。「内的条件」とは動作主体の一時的な条件による可能/不可能 (体調や気分など)、「外的条件」は動作主体外の状況による可能/不可能のことである。また、一段活用および二段活用動詞については、いわゆるラ抜き可能形と二重可能形が同形になっている可能性があるため (例えば、食べ+レル)、今回の調査項目から除外した。

表1 通信調査票の質問内容

可能の根拠	外的条件		内的条件		能力		心情	
	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定
現在 (13のみ未来)	01, 02	03	07, 08, 09 19, 13	10, 11	14, 15	16	20, 24	21
過去	04, 05	06	25	12	17	18	22	23

質問文01~06は、いわゆる「外的条件」による可能表現の文になっていて、「~ (ラ) レル」が予想される。07~13, 19, 25はいわゆる「内的条件」による可能表現の文になっていて、「二重可能形 (可能動詞の語幹+ (レ) レル)」が予想される。この意味領域は大分方言独特とされるものであり、詳しく調べる必要があるため、他より質問数を多くした。07は体調、08は気分、09は足のケガであってわりと大きなケガ。足には包帯をしているという注記をした。このような注記をすることで、主体内部であっても客観的に把握できる場合を調べようとした。13のみ未来のことで、三人称にもしてある。14~19は「能力」による可能表現の文になっていて、「~キル」が予想される。20~24は「心情」による可能表現の文になっている。この「心情」は関西方言の「ヨ-+動詞否定形」の存在によって区分されているので、大分方言に当てはまるか否かは分からないが、区分があるか否かの検証のために入れた。以上の枠に加え、肯定・否定や時制につい

でも配慮した。(表1)

各枠内の質問数が不均等なのは、ひとつは可能表現の場合否定形の方が使う頻度が高く、調査しやすいので否定形の数の方を多くしたためである。もうひとつの理由は、「内的条件可能」についてのプロトタイプ(典型例)が不明だったので、条件を細かく設定した。そのため、項目が多くなっている。

使用した動詞については、日常会話で自然に使うものを選んだ。

	肯定形	否定形
泳ぐ	3	6
行く	2	6
来る	1	0
書く	0	1
潜る	2	1
飲む	0	1
渡る	0	1
	(8)	(16)

活用形については、「来る」以外はすべていわゆる五段活用をするものにしたが、「泳ぐ」には「アビル・アブー(浴びる)」という方言語彙があり、高年代の一部が方言を使って回答した。

なお、返信が届いてから21番の質問の回答例がすべて否定形になっていたことに気づいた(肯定形を尋ねた質問だった)。理解して自由解答欄などを使って答えてくれた方もいたが、N(無回答)となっているものも多かった。無記名のため同一人物で再調査はできないので、今回はこのまま結果を出すことにした。後で行った調査では修正したが、その結果については稿を改めて述べたい。

3-2. 調査年月日 2004年9月～10月

3-3. 被調査者 大分県内6地点

(1)豊後高田市、(2)安心院町、(3)挾間町、(4)野津町、(5)弥生町、(6)日田市¹¹
中学生・その親・その祖父母でいずれもその土地生まれ、外住歴の無い方。
有効回答者数は69人¹²。各世代2～6名。(図1, 2)

3-4. 調査方法 話者が内省によって調査票に書き込む通信調査(稿末の調査票を参照)。県内各地の中学校国語科の先生方にご協力いただき、中学生とその親とその親の3世代、調査当時60歳前後(高年代)、40歳前後(中年代)、13歳前後(若年代)になるようお願いした。各個人用に切手を貼った返信用封筒を用意し、中学生5名分×世代別3人分の15通を一括して国語科の先生宛てに送付した。宛先の国語科の先生には前もって電話で連絡をとっておいた。ちなみに、一校だけ後日連絡があり、「このようなアンケートは個人情報保護に抵触する可能性があるから」という理由で返却された学校がある。返信は各人から、または先生が取りまとめて送ってくださったものもあった。

上記の要領で調査を行い、形式によってどのような意味領域を持つかを地点別・年代別にみるためのグラフを作成した。

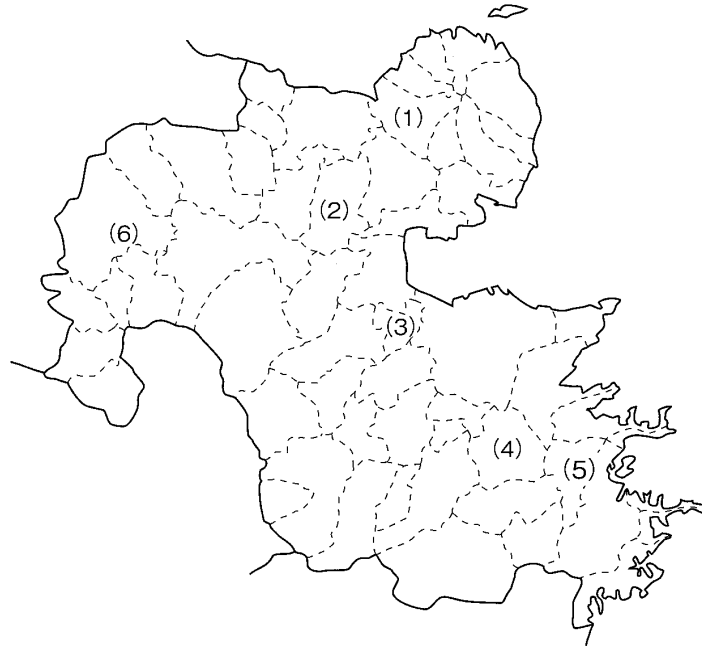


図1 大分県の地図と調査地点 『大分県史方言篇』(1991)の地図を利用

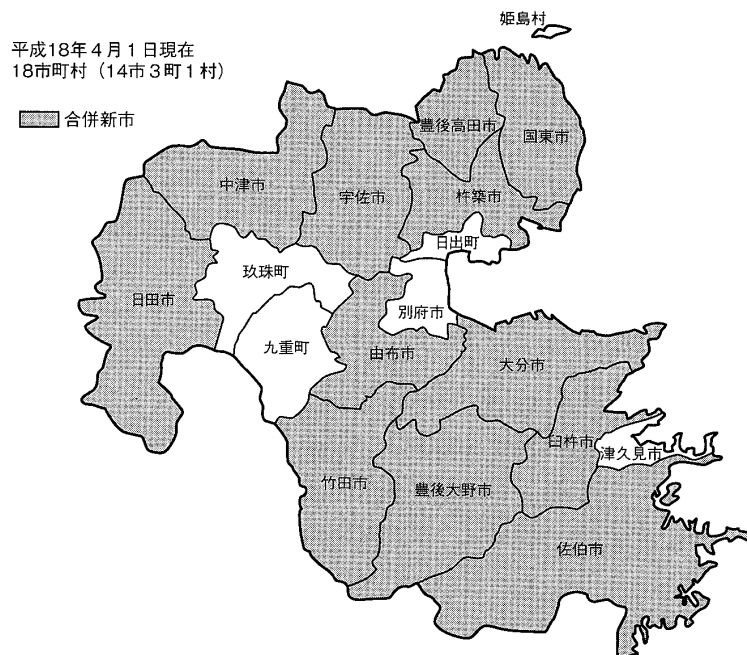


図2 平成18年現在の大分県市町村図 (<http://www.oita-gappei.jp/jyokyo/>より)

4. 調査結果

稿末に載せた「可能表現調査票」から得られた回答を、すべて記号に置き換えて入力し、左から若い順に出生年を並べた。したがって最左部は最も若く、最右部が最も高齢の被調査者である。アルファベットは被調査者名の代わりである。記号はその形式を使用するという回答のあったことを示し、空欄はその形式を使用しないことを示す。

なお、レルの古い形のルルも記入が見られたが、全てレルとして処理した。

4-1. キル、(ラ) レルの意味領域と地域差・世代差

図表1 2004年9月通信調査 キルと(ラ) レルの分布 ～キルの頻度順～ (1)豊後高田市

Table with columns for question number, time, response, possible condition, and categories A through K, plus counts for 'キル' and '(ラ)レル'.

A～アルファベット：話者（年齢若い順） ●：キル/キラン、□（ラ）レル/レン
現：現在、過：過去、根拠、A～N：話者（年齢若い順。色により3世代を区別）、
可能的根拠：可能的条件と同じ

図表3 2004年9月通信調査 キルと(ラ) レルの分布 ～キルの頻度順～ (3)萩関町

Table with columns for question number, time, response, possible condition, and categories A through K, plus counts for 'キル' and '(ラ)レル'.

図表5 2004年9月通信調査 キルと(ラ) レルの分布 ～キルの頻度順～ (5)弥生町

Table with columns for question number, time, response, possible condition, and categories A through K, plus counts for 'キル' and '(ラ)レル'.

図表2 2004年9月通信調査 キルと(ラ) レルの分布 ～キルの頻度順～ (2)安心院町

Table with columns for question number, time, response, possible condition, and categories A through K, plus counts for 'キル' and '(ラ)レル'.

図表4 2004年9月通信調査 キルと(ラ) レルの分布 ～キルの頻度順～ (4)野津町

Table with columns for question number, time, response, possible condition, and categories A through K, plus counts for 'キル' and '(ラ)レル'.

図表6 2004年9月通信調査 キルと(ラ) レルの分布 ～キルの頻度順～ (6)日田市

Table with columns for question number, time, response, possible condition, and categories A through K, plus counts for 'キル' and '(ラ)レル'.

4-3. その他の形式の地域差・世代差について

その他の形式としては、可能動詞、ダス、ウス、コナス、～コトガデキルが回答された。図表は割愛するが、結果の概略を以下に示す。

a. 可能動詞

どの地点でも、意味領域が特定できない。ほとんどの地点で若年から高年まで3世代の使用があるが、(6)日田市では高年の使用が質問12と17にそれぞれ1人(同一人)しかなかった。他地点でも可能動詞は若年と中年が中心であって、高年での使用は多くない。

b. ダス

全体的に回答数は少ないが、(4)野津町と(6)日田市では、「外的」の2, 5, 6番に使用が集中している。これらの文は「時間がある／ない」「用事がある」が根拠となっている。世代は中年から高年が中心である。他地点は意味領域が特定できない。(2)安心院町では、使用が個人的なものであり、使用者と非使用者がはっきり分かれている。

c. ウス

全体的に回答数は少ない。(1)豊後高田市では中年1人、(2)安心院町では若年1人、(3)挾間町と(6)日田市は高年1人のみの使用者数である。(4)野津町と(5)弥生町では中年と高年に4人ずつ使用者がいる。意味領域は(3)挾間町と(2)安心院町で特定できない他は、すべて「外的」である。

d. コナス

(1)豊後高田市、(2)安心院町、(3)挾間町には使用者が比較的多く、上の世代中心に使用がある。(1)豊後高田市は若年には使用者がいらない。意味領域は(3)挾間町で「外的」中心なもの、(5)弥生町では「内的」と「能力」にあって、他地点では意味領域が特定できない。

e. スルコトガデキル

(1)豊後高田市、(3)挾間町、(5)弥生町で多い。世代は3世代にわたっている。意味領域は特定できない。他地点では個人により使用が異なり、多用していることが分かる。

5. 考 察

①地域差

今回の調査で、(6)日田市の二重可能形の結果が注目される(図表12)。分布数が他地域に比べると際立って少なく、意味領域がまとまっている。おもに「内的条件可能」に使用されるといってよい。日田市に比べると、他の地点は同様の傾向を表すとはいえ、明瞭さを欠いている。ただ、(4)野津町、(5)弥生町、(6)日田市では高年に二重可能形が少ない。このことから、二重可能形は中年代を中心に使われ、県東北部から伝播したものと考えられる。

また、(5)弥生町に複数の語形を併用する話者が多い。この地域の若年代Aと高年代Lはキルの使用がない。Aは二重可能形と～デキル、可能動詞で回答している。またLもキルの回答がなく、(ラ)レルの他は～デキルが多く、残りは可能動詞と二重可能形を回答している。

キルと(ラ)レルの使い分けについては、「可能の根拠」の「内的」を境にしてキルが「心情」「能力」「内的」の一部を、(ラ)レルが「外的」と「内的」の一部を担当するとしてよい。これらは各地域の中・高年代に変わりなく見られる(表2、3、4)。使い分けが見られない話者として、(1)豊後高田市の話者N、(2)安心院町のB、(3)挾間町のD、(5)弥生町のGが観察される。本当に使い分けがないか否かは、現時点では断定できないが、これらの結果から、使い分けが厳然としたものではなく、なってきたことが分かる。

表2 キルの頻度地域別一覧 (上位10) ※太字は全地域の集計結果上位3位の番号

(1)豊後高田市		(2)安心院町		(3)挾間町		(4)野津町	
22 心情・否・過	91.67%	20 心情・否・現	91.67%	20 心情・否・現	93.33%	18 能力・肯・過	88.89%
12内的・肯・過	86.11%	18 能力・肯・過	83.33%	23心情・肯・過	93.33%	16能力・肯・現	83.33%
18 能力・肯・過	83.33%	17能力・否・過	72.22%	15能力・否・過	86.67%	17能力・否・過	83.33%
20 心情・否・現	83.33%	22 心情・否・過	72.22%	22 心情・否・過	86.67%	22 心情・否・過	83.33%
23心情・肯・過	83.33%	15能力・否・現	66.67%	16能力・肯・現	80.00%	24心情・否・現	83.33%
24心情・否・現	83.33%	24心情・否・現	66.67%	18 能力・肯・過	80.00%	20 心情・否・現	80.56%
15能力・否・現	75.00%	23心情・肯・過	63.89%	24心情・否・現	80.00%	12内的・肯・過	72.22%
16能力・肯・現	75.00%	16能力・肯・現	58.33%	17能力・否・過	73.33%	23心情・肯・過	72.22%
17能力・過・否	75.00%	21心情・肯・現	58.33%	21心情・肯・現	73.33%	15能力・否・現	66.67%
14能力・否・現	58.33%	14能力・否・現	55.56%	14能力・否・現	66.67%	7内的・否・現	63.89%
						21心情・肯・現	63.89%
						25内的・否・過	63.89%
(5)弥生町		(6)日田市					
15能力・否・現	83.33%	18 能力・肯・過	100.0%				
14能力・否・現	75.00%	20 心情・否・現	100.0%				
20 心情・否・現	75.00%	22 心情・否・過	100.0%				
21心情・肯・現	75.00%	23心情・肯・過	100.0%				
24心情・否・現	75.00%	14能力・否・現	88.9%				
22 心情・否・過	66.67%	15能力・否・現	88.9%				
16能力・肯・現	58.33%	16能力・肯・現	88.9%				
17能力・否・過	58.33%	17能力・否・過	88.9%				
19内的・否・現	58.33%	24心情・否・現	82.2%				
11内的・否・現	50.00%	12内的・肯・過	77.8%				
23心情・肯・過	50.00%						

表3 (ラ) レルの頻度地域別一覧 (上位10)

(1)豊後高田市		(2)安心院町		(3)挾間町		(4)野津町	
5外的・否・過	77.78%	1 外的・否・現	91.67%	9 内的・否・現	93.33%	8内的・否・現	91.67%
2外的・否・現	75.00%	9 内的・否・現	91.67%	1 外的・否・現	80.00%	1 外的・否・現	88.89%
9 内的・否・現	75.00%	2外的・否・現	75.00%	8内的・否・現	80.00%	7内的・否・現	83.33%
6外的・肯・過	72.22%	5外的・否・過	75.00%	3外的・肯・現	80.00%	25内的・否・過	80.56%
1 外的・否・現	69.44%	6外的・肯・過	75.00%	13 内的・否・現	80.00%	6外的・肯・過	63.89%
8内的・否・現	69.44%	13 内的・否・現	75.00%	7内的・否・現	73.33%	12内的・肯・過	63.89%
7内的・否・現	69.44%	8内的・否・現	72.22%	10内的・肯・現	66.67%	9 内的・否・現	61.11%
13 内的・否・現	66.67%	4外的・否・過	66.67%	5外的・否・過	63.33%	4外的・否・過	55.56%
4外的・否・過	61.11%	14能力・否・現	63.89%	2外的・否・過	60.00%	2外的・否・現	47.22%
10内的・肯・現	61.11%	3外的・肯・現	55.56%	6外的・肯・過	36.67%	5外的・否・過	47.22%

(5)弥生町		(6)日田市	
1 外的・否・現	91.67%	1 外的・否・現	100.00%
9 内的・否・現	91.67%	2 外的・否・現	88.89%
13 内的・否・現	83.33%	4 外的・否・過	88.89%
2 外的・否・現	75.00%	9 内的・否・現	88.89%
5 外的・否・過	75.00%	13 内的・否・現	86.67%
8 内的・否・現	75.00%	6 外的・肯・過	82.22%
7 内的・否・現	75.00%	3 外的・肯・現	77.78%
10 内的・肯・現	66.67%	11 内的・否・現	75.56%
11 内的・否・現	58.33%	10 内的・肯・現	75.56%
23 心情・肯・過	50.00%	5 外的・否・過	64.44%
6 外的・肯・過	50.00%		
4 外的・否・過	50.00%		

表4 二重可能形の頻度地域別一覧(上位10)

(1)豊後高田市		(2)安心院町		(3)挾間町		(4)野津町	
19 内的・否・現	83.3%	7 内的・否・現	100.0%	7 内的・否・現	80.00%	2 外的・否・現	83.3%
5 外的・否・過	77.8%	25 内的・否・過	91.7%	8 内的・否・現	80.00%	7 内的・否・現	75.0%
25 内的・否・過	72.2%	19 内的・否・現	83.3%	19 内的・否・現	73.33%	19 内的・否・現	75.0%
7 内的・否・現	69.4%	23 心情・肯・過	83.3%	2 外的・否・現	70.00%	14 能力・否・現	66.7%
17 能力・否・過	55.6%	22 心情・否・過	75.0%	25 内的・否・過	66.67%	5 外的・否・過	58.3%
13 内的・否・現	52.8%	8 内的・否・現	72.2%	17 能力・否・過	56.67%	6 外的・肯・過	58.3%
23 心情・否・過	52.8%	2 外的・否・現	72.2%	13 内的・否・現	56.67%	8 内的・否・現	55.6%
6 外的・肯・過	52.8%	5 外的・否・過	72.2%	4 外的・否・過	56.67%	4 外的・否・過	55.6%
22 心情・否・過	50.0%	6 外的・肯・過	72.2%	5 外的・否・過	56.67%	11 内的・否・現	47.2%
2 外的・否・現	50.0%	14 能力・否・現	63.9%	6 外的・肯・過	56.67%	20 心情・否・現	41.7%
		17 能力・否・過	63.9%	23 心情・肯・過	56.67%		
				10 内的・肯・現	56.67%		
				11 内的・否・現	56.67%		
(5)弥生町		(6)日田市					
19 内的・否・現	75.0%	19 内的・否・現	68.9%				
11 内的・否・現	66.7%	8 内的・否・現	40.0%				
25 内的・否・過	66.7%	25 内的・否・過	33.3%				
20 心情・否・現	66.7%	10 内的・肯・現	24.4%				
7 内的・否・現	58.3%	7 内的・否・現	22.2%				
8 内的・否・現	58.3%	12 内的・肯・過	13.3%				
22 心情・否・過	58.3%	18 能力・肯・過	11.1%				
23 心情・肯・過	58.3%	14 能力・否・現	0.0%				
2 外的・否・現	58.3%	15 能力・否・現	0.0%				
6 外的・肯・過	58.3%	16 能力・肯・現	0.0%				

②年代差

図表1～6を見ると、高い年代ほどキルと(ラ)レルの使い分けがはっきりしているのに対して、若い年代は併用が目立つことが分かる。(5)弥生町は(ラ)レルが中・若年代で「心情」「能力」まで広く使われる。高年代はそのようなことはなく、(ラ)レルの意味領域は「外的」「内的」内にほとんどとどまっている。つまり、年代が下がると今回設定した意味区分による使い分けをしなくなっているということだ。

二重可能形についての図表7～12をあわせ見ると、(5)弥生町や(6)日田市などに顕著に表れているように、高年代の使用数は極端に少ない。同じ傾向が(1)豊後高田市、(4)野津町などにも見られることから、二重可能形は新しい形であり、現在では可能の意味を広く表せる形式として中・若年代に使われていると言える。

九州方言学会(1969)¹³などの先行研究では、(ラ)レル(古くはラユ、ラルル)は古くから可能表現、特に状況可能を表す形式として使われているとの報告があり、今回の調査でも中・高年代ではそれを支持する結果が出た。しかし、より若い世代ではキルと相互乗り入れのような様相を呈しており、そこに二重可能形も全体的に侵入し始めているという、非常に複雑な分布状況だということがわかった。

年代差については、より詳しい分析が必要だが紙幅の制限もあるので稿を改めて論じたい。

③キル、(ラ)レル、二重可能形の意味のプロトタイプ¹⁴

全地域・全年代を通して、キル、(ラ)レル、二重可能形の意味として回答の多かった質問番号順を出した。その上位の内容を見て、それぞれの形式の意味のプロトタイプ、つまりその形式は可能表現として、どのような意味が典型的なものであるのかを探ろうとした。(表5～8)

表5 キルの回答頻度(上位5位)

順位	質問番号	%	質問文
1	20(心情)	87.3%	夜のお墓なんてこわくて一人で <u>行くことができない</u>
2	22(心情)	83.4%	小さいころは夜のお墓なんてこわくて一人で <u>行くことができなかった</u>
3	18(能力)	79.5%	以前は海で10メートル以上も <u>ぐることができたのに</u>
4	24(心情)	78.4%	(流れの急な川を途中まで渡りながら)こわくて向こうまで <u>渡ることができないよ</u>
5	15(能力)	77.9%	私は海で10メートル以上は <u>もぐることができない</u>

キルの上位を見ると、可能／不可能の根拠は「こわくて」としたものが3つ、「海を潜る能力」としたものが2つである。肯否は否定形が多い。以上からキルのプロトタイプ的意味は、〈自己の内部が原因で当該動作ができる／できない〉となる。

表6 (ラ)レルの回答頻度(上位5位)

順位	質問番号	%	質問文
1	1(外的)	89.2%	そのプールは工事中(改装中)で <u>泳ぐことができない</u>
2	9(内的)	86.5%	私は足をケガして <u>泳ぐことができない</u> ※わりと大きなケガで、包帯を巻いている状況を考えてください
3	13(内的)	75.9%	太郎は足をケガして <u>泳ぐことができない</u> ※これも大きなケガで包帯を巻いている状況で
4	2(外的)	73.5%	<u>時間がなくて行くことができない</u>
5	5(外的)	71.3%	きのうは用事があって郵便局に <u>行くことができなかった</u>

(ラ) レルの上位を見ると、可能／不可能の根拠は「工事中」「わりと大きなケガ」「時間がない」「(他に) 用事がある」である。肯否は否定形ばかりである。13番の場合は動作主体が「太郎」であり、話者ではない。ここで一考を要すると思われるのは、9, 13番の根拠である。これらは「動作主体内の一時的な可能／不可能の根拠」として「内的」項目に入れたのだが、「大きなケガで包帯を巻いている」という説明を入れたため(ラ) レルの回答が増えたと思われる。これらと「時間がない」「用事がある」という根拠を加えて(ラ) レルのプロトタイプの意味を考えると、〈動作主体の能力や心情には関係なく、状況的に当該動作ができる／できない〉となる。ただし、「時間がなくて」と「用事があって」は、時間を作る能力が欠如しているからとか、用事を処理する能力が欠如しているからなどと「能力」として捉える道も閉ざされてはいない。この辺にキルも使う理由があるようだ。

表7 二重可能形の回答頻度(上位5位)

順位	質問番号	%	質問文
1	19(内的)	76.5%	(すでにお酒をたくさん飲んでいて)もうこれ以上飲むことができない
2	7(内的)	67.5%	今日は体調が悪いから仕事に行くことができない
3	25(内的)	59.7%	きのうは体調が悪くて仕事に行くことができなかった
4	8(内的)	58.9%	今日は気分が悪いから泳ぐことができない
5	2(外的)	55.7%	時間がなくて行くことができない

二重可能形の上位を見ると、可能／不可能の根拠は「すでにとくさん飲んでいて」、「体調が悪い」、「気分が悪い」「時間がない」である。肯否は否定形ばかりである。先行研究では、二重可能形の意味は〈動作主体内の一時的な状況による可能／不可能〉となっているが、それでは5位の2「時間がなくて行くことができない」がうまく説明できない。ちなみに、5位以下10位までを続けて表にする(表8)。

表8 二重可能形の回答頻度(6～10位)

順位	質問番号	%	質問文
6	5(外的)	52.5%	きのうは用事があって郵便局に行くことができなかった
7	6(外的)	49.7%	きのう時間ができてやっと郵便局に行くことができた
8	23(心情)	46.9%	きのう勇気を出してやってみたら夜のお墓でも行くことができた
9	14(能力)	43.1%	練習しているけどまだ100メートル以上は泳ぐことができない
10	17(能力)	42.8%	私はむかしは100メートルも泳ぐことができなかった

先述のように若い世代では二重可能形が広く可能の意味全体を覆うように分布しているので、これらの結果はそれを表している。プロトタイプ的には〈動作主体内の一時的な状況による可能／不可能〉でよいと思われるが、その際に「これまでに飲んでいなければ、まだ飲むことができる」、「体調が悪くなければ仕事に行くことができる」、「気分が悪くなければ泳ぐことができる」というニュアンスが伝わりやすく、それに通じるニュアンスが「時間があれば行くことができる」からも伝わると考えられる。そのニュアンスとは〈できなくて残念だ／できて嬉しい〉というものである。

可能表現とはそもそも当該動作ができることが望ましいという前提を持つ(通常「試験に不合格できた。」とは言わない)。特に二重可能形のプロトタイプの意味〈一時的な可能／不可能〉に

においては、そのようなニュアンスが出やすい。また、多義語化のプロセス、ある意味を表すときに必ず伴うニュアンスが次第に全面に出て、ついにはもう1つの意味となる「意味の前景化」現象¹⁵がここでも起きたとすると、そのような話者の感情が読みこめる場合には使えることになる。そうなる今までの可能の根拠とは別次元で使う一種の強調（可能）表現であり、いかなる可能の意味でも使える「無標の可能形式」として分布していると解釈すれば、今回の結果は理解できる。地域的に見ると、東北部～中部の(1)豊後高田市、(2)安心院、(3)挾間町では高年代まで達しているが、南部の(4)野津町、(5)弥生町や西部の(6)日田市では高年代はまだその現象は起きていない。

6. まとめと今後の課題

地域別・年代別に大分方言の可能表現形式の3つ—キル、(ラ)レル、二重可能形—をおもに取り上げて、その実態を調査・分析した。その結果、キルも二重可能形も東北部から南部・西部へと伝播したことが推察される。現在の高年代まではキルと(ラ)レルの意味上の区分は比較的明確であり、キルは〈自己の内部が原因で当該動作ができる〉、(ラ)レルは〈動作主体の能力や心情には関係なく、状況的に当該動作ができる〉というプロトタイプの意味を持ち、安定していたと考えられる。地域的には6地点中、日田市が最も安定した分布状況である。

二重可能形は、ある時期¹⁶、〈動作主体内の一時的な状況による可能／不可能〉を表した。この意味領域はキルと(ラ)レルの守備範囲を脅かすものではなかったが、その後、〈できなくて残念だ／できて嬉しい〉という話者の感情を表す意味が中心となり、可能の意味の区別を無視して使える「無標の可能形式」になりつつあると観察される。さらにこの傾向は、キルと(ラ)レルの使い分けにも影響を与え、若い世代にはこれらを区別なく使う傾向も表れている。

今後は、今回は詳細に見ることができなかった各地点の年代差から、二重可能形が「無標の可能形式」となった過程を検証したい。また、日田市で臨地調査を行い、通信調査の結果を検証することも必要と思われる。

最後に、今回は可能動詞について詳しく取り上げることができなかった。今後、可能動詞と二重可能形の関係について調査・分析を進めることによって、大分方言における可能表現の変遷と意味構造を明らかにできると考える。

【付記】 今回の通信調査にご協力いただいた、高田中学校、安心院中学校、挾間中学校、野津中学校、昭和中学校（弥生町）、東有田中学校（日田市）の国語科の先生とアンケートに答えてくださった中学生（当時）およびそのご家族の皆さまに、心より御礼申し上げます。そしてまた、仲介の労をとってくださった方々の御厚意にこの場を借りて敬意と感謝の意を表します。

【資料】可能表現（通信）調査票（2004.08.20 実施・10.09改訂）

1	そのプールは工事中（改装中）で泳ぐことができない
	オヨギキラン オヨゲン オヨゲレン オヨガレン オヨグコトガデキン オヨギウセン オヨギコナサン オヨギダサン ()
2	時間がなくて行くことができない
	イキキラン イケン イケレン イカレン イクコトガデキン イキウセン イキコナサン イキダサン ()
3	車があるので早く来ることができる
	キキル コレル コレレル コラレル クルコトガデキル キウセン キコナサン キダサン ()
4	きのうは便せんがなくて手紙を書くことができなかった
	カキキラン (カッタ/ヤッタなど) カケン (カッタ/ヤッタなど) カケレン (カッタ/ヤッタなど) カカレン (カッタ/ヤッタなど) カクコトガデキン (カッタ/ヤッタなど) カキウセン (カッタ/ヤッタなど) カキコナサン (カッタ/ヤッタなど) カキダサン (カッタ/ヤッタなど) ()
5	きのうは用事があった郵便局に行くことができなかった
	イキキラン (カッタ/ヤッタなど) イケン (カッタ/ヤッタなど) イケレン (カッタ/ヤッタなど) イカレン (カッタ/ヤッタなど) イクコトガデキン (カッタ/ヤッタなど) イキウセン (カッタ/ヤッタ) イキコナサン (カッタ/ヤッタ) イキダサン (カッタ/ヤッタ) ()
6	きのう時間ができてやっと郵便局に行くことができた
	イキキッタ イケタ イケレタ イカレタ イクコトガデキタ イキウセタ イキコナシタ イキダシタ ()
7	今日は体調が悪いから仕事に行くことができない
	イキキラン イケン イケレン イカレン イクコトガデキン イキウセン イキコナサン イキダサン ()
8	今日は気分が悪いから泳ぐことができない
	オヨギキラン オヨゲン オヨゲレン オヨガレン オヨグコトガデキン オヨギウセン オヨギコナサン オヨギダサン ()
9	私は足をケガして泳ぐことができない ※わりと大きなケガで、包帯を巻いている状況を考えてください
	オヨギキラン オヨゲン オヨゲレン オヨガレン オヨグコトガデキン オヨギウセン オヨギコナサン オヨギダサン ()
10	今日は体調がいいから何時間でも泳ぐことができる
	オヨギキル オヨゲル オヨゲレル オヨガレル オヨグコトガデキル オヨギウセル オヨギコナス オヨギダス ()
11	(ケガをしていながら水に入って泳ごうとしてみてもうまくできずに)やっぱり泳ぐことができない
	オヨギキラン オヨゲン オヨゲレン オヨガレン オヨグコトガデキン オヨギウセン オヨギコナサン オヨギダサン ()
12	きのうは体調がよくて1キロ泳ぐことができた
	オヨギキッタ オヨゲタ オヨゲレタ オヨガレタ オヨグコトガデキタ オヨギウセタ オヨギコナシタ オヨギダシタ ()
13	太郎は足をケガして泳ぐことができない ※これも大きなケガで包帯を巻いている状況で
	オヨギキラン オヨゲン オヨゲレン オヨガレン オヨグコトガデキン オヨギウセン オヨギコナサン オヨギダサン ()

14	<u>練習しているけどまだ100メートル以上は泳ぐことができない</u>
	オヨギキラン オヨゲン オヨゲレン オヨガレン オヨグコトガデキン オヨギウセン オヨギコナサン オヨギダサン ()
15	<u>私は海で10メートル以上はもぐることができない</u>
	モグリキラン モグレン モグレレン モグラレン モグルコトガデキン モグリウセン モグリコナサン モグリダサン ()
16	<u>私は海で10メートル以上もぐることができる</u>
	モグリキル モグレル モグレルレ モグラレル モグルコトガデキルモグリウセル モグリコナス モグリダス ()
17	<u>私はむかしは100メートルも泳ぐことができなかった</u>
	オヨギキラン (カッタ/ヤッタなど) オヨゲン (カッタ/ヤッタなど) オヨゲレン (カッタ/ヤッタなど) オヨガレン (カッタ/ヤッタなど) オヨグコトガデキン (カッタ/ヤッタなど) オヨギウセン (カッタ/ヤッタなど) オヨギコナサン (カッタ/ヤッタなど) オヨギダサン (カッタ/ヤッタなど) ()
18	<u>以前は海で10メートル以上もぐることができたのに</u>
	モグリキタンニ モグレタンニ モグレレタンニ モグラレタンニ モグルコトガデキタンニ モグリウセタンニ モグリコナシタンニ モグリダシタンニ ()
19	<u>(すでにお酒をたくさん飲んでいて) もうこれ以上飲むことができない</u>
	ノミキラン ノメン ノメレン ノマレン ノムコトガデキン ノミウセン ノミコナサン ノミダサン ()
20	<u>夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない</u>
	イキキラン イケン イケレン イカレン イクコトガデキン イキウセン イキコナサン イキダサン イキオーセン ()
21	<u>勇気があるから (私は) 夜のお墓でも一人で行くことができる</u>
	イキキル イケル イケレル イカレル イクコトガデキル イキウス イキコナス イキダス ()
22	<u>小さいころは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができなかった</u>
	イキキラン (カッタ/ヤッタなど) イケン (カッタ/ヤッタなど) イケレン (カッタ/ヤッタなど) イカレン (カッタ/ヤッタなど) イクコトガデキン (カッタ/ヤッタなど) イキウセン (カッタ/ヤッタなど) イキコナサン (カッタ/ヤッタなど) イキダサン (カッタ/ヤッタなど) ()
23	<u>きのう勇気を出してやってみたら夜のお墓でも行くことができた</u>
	イキキッタ (イッキッタ) イケタ イケレタ イカレタ イクコトガデキタ イキウセタ イキコナシタ イキダシタ ()
24	<u>(流れの急な川を途中まで渡りながら) こわくて向こうまで渡ることができないよ</u>
	ワタリキラン (ヨ/ナー/ノーなど) ワタレン (ヨ/ナー/ノーなど) ワタレレン (ヨ/ナー/ノーなど) ワタラレン (ヨ/ナー/ノーなど) ワタルコトガデキン (ヨ/ナー/ノーなど) ワタリウセン (ヨ/ナー/ノーなど) ワタリコナサン (ヨ/ナー/ノーなど) ワタリダサン (ヨ/ナー/ノーなど) ()
25	<u>きのうは体調が悪くて仕事に行くことができなかった</u>
	イキキラン (カッタ/ヤッタなど) イケン (カッタ/ヤッタなど) イケレン (カッタ/ヤッタなど) イカレン (カッタ/ヤッタなど) イクコトガデキン (カッタ/ヤッタなど) イキウセン (カッタ/ヤッタなど) イキコナサン (カッタ/ヤッタなど) イキダサン (カッタ/ヤッタなど) ()

註

- 1 種友明・糸井寛一（1977）「大野川流域における可能表現」大分大学教育学部『大野川～自然・社会・教育～』
日高貢一郎・種友明（1981）「大分県津江地方の可能表現」『大分大学教育学部研究紀要』大分県津江地域特集
日高貢一郎（1991）「九州方言の可能表現」『大分県史 方言篇』（246～247p.）
- 2 渋谷勝己（1993）「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』第33巻第1分冊32p.
- 3 「区分」とは判然とした使い分けがある場合、「領域」とは使い分けが判然とはしていない意味範囲が多少重なり合って存在している場合を指す。
- 4 『西日本方言の可能表現に関する調査報告書』九州方言研究会編（平成16年・2004年）
- 5 注1の日高・種（1981）においては、「話者の読み込み」が質問の設定を超えて形式決定力を持つ場合があることが、すでに指摘されている。
- 6 そうであっても、共通語と同様の「きる」を使わないわけではないようだ。
- 7 松田正義・日高貢一郎（1994）『大分方言30年の変容』明治書院（上・390p.）
- 8 青木博史（2004）「複合動詞『～キル』の展開」（『国語国文』第73巻第9号）
- 9 前掲論文より。「静まりきる」「錆びきる」などの変化動詞・限界動詞に「きる」が接続した場合に生じた意味。
- 10 渋谷（1993）他に従い、可能の根拠となるものを「心情」「能力」「内的条件」「外的条件」として質問が作成されている。
- 11 市町村合併により、現在では各町が市の中に組み込まれている。安心院町→宇佐市、挾間町→由布市、野津町→臼杵市、弥生町→佐伯市
- 12 105通に対して77人（回収率73.3%）から返信があったが、フェイス・シートの記入漏れなどで8人分は分析対象から外した。
- 13 九州方言学会編（1969）『九州方言の基礎的研究』風間書房
- 14 Prototypeは「原型・基本型」とも訳されるが、認知意味論ではある意味領域の中で「典型的・中心的」とされるものを指す。
- 15 初山洋介・深田智（2003）「“意味の拡張”のメトニミー（換喩）の考え方」87～88p.を参照。松本曜編『認知意味論』大修館書店
- 16 ある時期とは、高年代の言語習得期（今から60～50年前か）から十数年間と思われる。拙稿（2005）「日本語の中の[九州方言]・世界の言語の中の[九州方言] 8・表現がうまれるときー可能表現ー」82～83p.『日本語学』2005年12月号 vol. 24（明治書院）を参照されたい。

The Regional and Generational Difference of Potential Forms in the Oita Dialect
～From the Result of a Three Generations Questionnaire Survey～

MIKA Matsuda

I carried out this survey in 6 points of Oita prefecture in Japan in Sep. 2004. There are 3 main potential forms in Oita dialect—[-kuru], [-a (ra) reru], [-e (re) reru]—. As the result of this survey, I understood that [-kuru] and [-a (ra) reru] come from the northeast Oita and that [-e (re) reru] is a form that has been used for a long time. For the present elderly people, [-kuru] means "A has an ability to..." and [-a (ra) reru] means "Regardless of ability and feelings of A, ... is possible judging from the situation". The distinction between the two is clear for the elderly people. Junior high students and a part of the middle-aged people, however, seem not to make the distinction. The result of Hita city is the most stable.

[-e (re) reru] meant "As for A, ... is possible or impossible according to his/her situation at the time" for several years 50 to 60 years ago. But [-e (re) reru] has changed its meaning to "A is glad to be able to .../ A cannot do ... and is disappointed". This form is becoming to be used for any of the meanings of potential expression. Under the influence of this phenomenon, the distinction between the two meanings is disappearing among junior high students.